



本人が選ぶ

サービスの時代に

横浜市グループホーム連絡会

会長 室津滋樹

社会福祉基礎構造改革についての中間まとめが発表されました。財政構造改革だ。ビッグバンだ、などを他人事としてニュースで聞いていたのですが、この中間まとめを読んでびっくりというのが正直な感想です。高齢者福祉でも児童福祉でも、措置制度から利用者がサービスを選ぶ方向へと変わりつつありますが、(介護保険など)、この中間まとめでは、障害者福祉も、措置制度から転換するよう求めています。

現在は、行政(福祉事務所)が、この障害者にどのようなサービスが必要かを判断し、〇〇施設を利用するなどと決定(措置)しているのです。つまり、利用者は希望は述べられますが、施設を利用するかしないか、どの施設にするかなどを決められず、決めるのは、すべて行政でした。

今の措置制度から、利用者がサービスを選択できるように転換するというのがこの中間まとめです。利用者がサービスを選擇できることにより、サービス間で競争が起き、質が悪いところはつぶれていくかもしれません。つまり、護送船団方式から、市場原理の導入という福祉

のビッグバンという内容なのです。

この改革が何をもたらすのかは、もう少し具体化してこないとよくわからないし、今の時点での評価は難しいと思います。でも利用者がサービスを選擇できるというのは当然のことであるし、サービス間に競争があることは必要なことだと思います。

この答申について、措置がなくなると逆の選択、つまり、サービス供給側が利用者を選び、最重度者、援助が困難な人たちが適切なサービスを受けられなくなるのではないかとという批判があります。そのような恐れはもちろんあります。しかし、今でも施設が利用者を選ぶというところがあるのも事実です。

作業所やグループホームは、措置によらず、利用者と運営委員会の契約によります。措置によらない、自由な契約に基づく作業所やグループホームで最重度者、援助が困難な人たちをしっかりと受け止めているという現実があります。なぜでしょう。それは、運営に障害者本人やその家族が加わっているからだと思います。当事者が加わることに、放置されてしまう人がでないよう努力がなされているのだと思います。

サービスを受け取る当事者が、自分たちが必要とするサービスを供給するという、運営委員会方式こそが、これからの福祉で大きな役割を果たせるはずだし、そう願っています。不十分な福祉サービスの中で自らサービスを作り出してきた当事者参加の作業所やグループホームこそ、福祉の「宝」なのではないでしょうか。

知的障害者が

外出できるようになるために…

なるために…

知的障害者ガイド

ヘルパー事業に関する意見書を提出

を提出

グループホームでは多くの知的障害者が生活しています。障害の程度や種別はさまざま。好みや趣味も一人一人ちがいます。

多くの人たちにとって、外出というのは非常に個人的なものです。その人の用事の場合もあれば、自分の余暇を好きに楽しみたい、ふらっと出かけたいため、ひとりでさまざま。グループでみんなの意見の平均をとった外出だけではないという人はそれほど多くはないと思います。

現在、多くのグループホームでは職員が入居者の外出を援助していますが、少ない職員では一人一人にあった外出を実現することはむずかしく、どうしてもみんな一緒に出かけることになりがちです。この秋から横浜市が開始する知

なるために…

知的障害者ガイド

を提出

的障害者ガイドヘルパー事業には、大きな意味があります。現時点では多くの制限があつて、使いやすなものとは言えませんが、この制度が本来に知的障害者のニーズに応えられる制度に育つことを期待して、連絡会で知的障害者の外出について意見書を提出し、どのような課題を抱えているかを横浜市と話し合いました。

Aさんの場合

障害は自閉症です。知的能力の障害の程度は軽いと判断されているので、この秋から実施されるガイドヘルパーの制度は対象外になります。でも自閉症はコミュニケーションがうまくいかなない障害です。病院への往復は一人でできて、お医者さんの話すことがAさんに

通じているのか、Aさんの言っていることがお医者さんに正しく伝わっているのか確認する人の介入が必要でです。

Bさんの場合

障害は自閉症です。彼も障害の程度は軽いと判断されていますから、ガイドヘルパーの制度の対象外となります。

彼は自分の出かけた場所を決め、遠方まで出かけることを好みます。その時に宿泊の手配や意志の伝達など、多くの援助を必要としています。現在は親が付き添っています。現在が親が付き添って悪いと出かけられなくなりパニックになります。余暇活動を保障できるように援助することで彼の生活は安定することが多いのです。今はガイドヘルパー制度の中に余暇活動は認められてませんが、早く認めてほしいものです。

Cさんの場合

知的障害をもった女性です。彼女は本当はいろいろな所に行つてたくさん体験してみたいという気持ちがあります。でも知らない人と出かけることは嫌なのです。「知らない人と一緒にいるのは気がつかずどこどこで疲れる。一人の方が気楽でいい」というのが彼女の意見です。

Dさんの場合

障害は自閉症です。彼も障害の程度は軽いと判断されています。自分で交通機関を利用して街に出かけます。ところが話し方や態度が変わった人として見られ、ゲームセンターなどで中高生にからかわれたりいじめられたりします。自閉症の人は知的能力が高くて、さまざまな状況を理解し対処することが難しい障害です。社会と障害をもった人との関係を調整していく援助者としてガイドヘルパーが必要でです。

知的障害をもった女性です。彼女は本当はいろいろな所に行つてたくさん体験してみたいという気持ちがあります。でも知らない人と出かけることは嫌なのです。「知らない人と一緒にいるのは気がつかずどこどこで疲れる。一人の方が気楽でいい」というのが彼女の意見です。

で知らないところに一人で行くのは臆病になります。

彼女の希望はよく知っている人で、仲のいい人がガイドヘルパーとして来てくれるようになることです。

Eさんの場合

知的障害をもった男性です。彼は福祉事務所に行くことは一人でできます。でも行ってからとても困っています。説明してもらってもなかなかわからない。書類を書くのがむずかしい。自分の用事はどここの窓口でたせるのかわからなくて、あちこち行ったり来たりさせられるのはとても嫌だ。だれか一緒に行ってくれるととても助かるのだけど...とガイドヘルパーが使えることを心待ちにしています。

Fさんの場合

少し重い知的障害をもった人で、いつも一人で出かけますが、同じコースをたどっています。遊

園地や鉄道の博物館など行きたいところはあっても、一人では入れないので。サークル活動など他の人と一緒に参加するような形は苦手です。

気のあった人と一対一の外出ができるようになればと思うのですが、なかなか実現できません。鉄道の写真を撮るのが好きなのに、援助する人がいないので自分の世界を広げることができないです。ガイドヘルパー制度が使えることを期待しています。

Gさんの場合

少し重い知的障害をもった人で、ことばに障害があります。日用品や衣類などの買い物、なかでも、衣類はGさんの好みに合わせてサイズや品質、値段などを相談のつてあげながら買い物を楽しむことが必要です。

月に一回くらい理容院にも行きます。彼の好みに合わせてヘアスタイルを伝えたり、待ち時間を一

緒に付き添う必要があります。また入居者部会などの会議に参加するときも付き添いが必要になります。会議の内容を彼にわかるように伝えたり、彼の言いたいことを会議の参加者に補足して説明したりすることが必要になります。

知的障害をもった人々にとってガイドヘルパー制度が使いやすくなるためにはこれから次のことを考えていく必要があります。

- 1 障害の程度に関わりなく必要な人が使えること
- 2 余暇活動にも使えること
- 3 土曜、日曜、祭日など休日にも使えること
- 4 午後五時以降にも使えること
- 5 障害者が希望する人をヘルパーにできること
- 6 新しいヘルパーさんと障害をもった人が仲良くなって、外出できるようになるまでコーディネートするところが必要なこと

未完成とはいえ、知的障害者の地域での生活を支える制度がようやく芽を出したのです。みんなが一生懸命使って、知的障害を持った人たちが外出できる人をたくさん増やして行きたいと思えます。



シンポジウム

「21世紀のノーマライゼーション」
—横浜在援協25周年記念—

スウェーデンのベントクト・リイニエ氏を招き21世紀を展望します。

日時 十月十五日(木)13:30~
場所 パシフィコ横浜 会議センター

参加費 五百円(当日)

申し込み 在援協 電話 471-0556

入居者は、どう思っているでしょう...

ながい お休み どうすごす?

これからの課題

ほかのグループホームの人たちと、どこかへいきたい!

ダレカア...

入居者はみんな、長い休みを自分なりに過ごしたいと思っています。

でも、どうすれば実現できるのかわからなかったり、つきそう人がいなかったり、ということが壁になっています。情報の提供や相談それに「人手」が必要です。

お正月は、ずっとお家にいました。ひとりで食べて... さみしかった。

家に帰れる人は、いいねえ... ずっとホームにいるのも、つらいよ。

みんな、キレイ! 星がいっぱい!

ながい お休み どうすごす?

本当は、ひとりで写真を撮りに行きたいんだ

今年の冬休み

ゲームしたり 散歩したり...

作業所に行きました。

みんなでキャンプに行った!

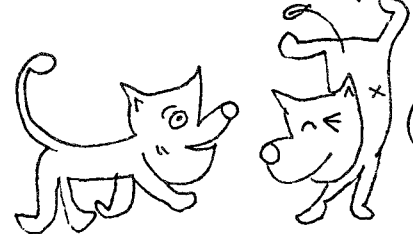
5つのグループホームの入居者ワムと介助者が群馬県のまっただ森の家でお正月をむかえました。

まっただ森の家

仲間のみんなと、お正月をむかえました。

お正月に、いろいろな話をしました!

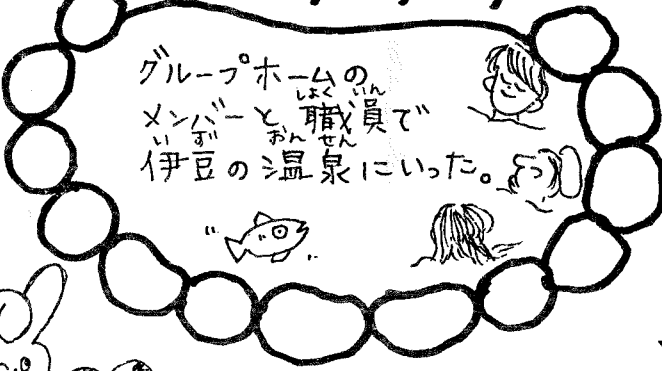
グループホームのメンバーと職員で伊豆の温泉にいった。



みなさんのふるさとになれば...



おせち料理 出たよ!!





がオープンします

横浜市社会福祉協議会
横浜生活あんしんセンター

開設準備担当課長 細川 哲志

横浜市社会福祉協議会では、お年寄りや障害者の皆さんが、安心して日常生活を送れるように支援をするため、「横浜生活あんしんセンター」を今年十月に開設することになりました。

管理サービスは、センターの担当職員が自宅などを定期的に訪問し、ご本人の状況を把握して、必要な福祉保健サービスにつなぐり、預貯金の出し入れを代行するなどの支援を行うサービスです。

このセンターでは、まずご本人やご家族あるいはグループホームの職員さんが困っていることについて、相談をお受けします。相談内容が相続や財産など、法律問題のときは弁護士が相談に応じます。

グループホームでは、現在でも職員の方が日常的な生活相談等を受けていると思いますが、例えば相続問題が発生した場合など、判断に悩むこともあるかと思いますが、そのような場合は、是非このセンターにお気軽に相談下さい。

次に、相談をする中でご本人が希望すれば、契約を結んで財産保全サービスや定期訪問・金銭管理サービスを提供して支援します。財産保全サービスは、不動産権利証や実印などの重要な財産を、銀行の貸金庫で安全に保管するサービスです。また、定期訪問・金銭

なお、相談については無料ですが、財産保全や定期訪問・金銭管理サービスについては、実費相当額程度を負担していただきます。

場所 横浜市健康福祉総合センター
9階(桜木町一ー二)
電話 201-2000(十月一日より)

ひかわまる しょくじかい 氷川丸で食事会



きぶん
リッチな気分で
いただきます!

2月11日、入居者部会は山下公園にある「ひかわまる」でお食事会をしました。みなさん、お口ににごちそうをほおばりながらハイチーズ! (参加者 100人)

お食事会の感想

原田 美恵子

お食事会は、とてもよかったです。どかがよかったかといえますと、はじめに船でやったのが、とても良かったが、ちよつと文句ができました。バイキングなどで、食べられる人と食べられない人がいました。それは良くないと、やくいん会議で話し合いをしました。それから、ビンゴゲームの事です。にゆうきよしや部会です。ちばんうれしかったのは、たまごっちがけいひんだったのが良かったです。船酔いをした人もいたようです。



神宮さんのダンスで盛り上がる



おいしいよ~!

入居者ワイワイ

候補者ハラハラ

入居者部会選挙

第7回総会開かれるー

6月20日(土)、朝からその日は曇り空という天気の中、グループホーム連絡会の職員部会、入居者部会と総会がラポールの大会議室でありました。そこで新しい入居者部会の役員選挙をしました。

グループホームの代表が投票した結果、選挙は最後までドキドキの大接戦でした。そして新役員の顔ぶれがでそろいました。とてもスリルのある選挙でした。候補者の皆さんお疲れ様でした。そして新役員の皆さん、これから頑張ってください。

新しい役員の紹介をします。
部会長 原田未来(ハーモニ)

副部会長 伊達亮介(はまゆう)

荒井義明(げしゅくや)
内藤志乃生(ぼけっと)

の方々です。

入居者部会で、今年やることを決めました。

- 1 カラオケ
- 2 ボーリング
- 3 ハイキング
- 4 話し合い

です。たくさん楽しみたいです。



入居者部会長

原田未来さんに聞く

職員部会

岡部千枝さんに聞く

インタビュー

記者 これから部会でどんなことをやっていきたいですか。
岡部 日頃の悩みを話す相手がないので、相談とか学習会とかやっていけたらと思います。飲み会もやりたいですね。
記者 入居者部会には行きますか。
岡部 何度か行ったことはあります。大勢の人が集まり、他のグループホームの人達と話が出来るのが楽しいですね。
記者 あと何か言いたいことは?
岡部 会長は初めてなので不十分なことも出て来るとは思いますが、皆様のご協力をお願い致します。楽しい入居者部会、職員部会にしていきたいです。



記者 部会長になった感想は?
原田 いいと思う。あのね、司会をやりたい。「誰誰さん、どうですか?」って。
記者 入居者部会で、どんなことをやるのですか?
原田 いろんな遊びのことや、旅行の計画。
記者 会長選挙はどうでしたか?
原田 一票差でできたの。正の字が一画一画ふえていくでしょ。ドキドキしちゃった。
記者 総会はどうでしたか?
原田 緊張したけれど、これからもやりたい。今年も副部会長さんが3人ですね。役員4人、みんなで協力してやっていきたいです。



協力会員募集!

まちの中できらしている障害者の声や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるためにご支援をお願いいたします。

会費(年) 1口 2000円

振替... 00280-7-73608
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていた方には、
機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を!

グループホーム運営支援基金のために
みなさまのお手元でねびっている未使用の
テレフォンカード、オレンジカード、ビール券、
商品券などのご寄付をお願いいたします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会
事務局

〒231 横浜市中区本牧満坂10
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費

振り込みをお願い
いたします

阪神大震災にあつた障害者を支援するための
Tシャツの販売を職員部会でつ行つております。
お問い合わせは「記事まで」
尚、「阪神大震災カンパ」の方へ終了いたしました。
ぜひご協力ありがとうございます。

～ありがとうございます～ (97.12.1～98.8.31) 敬称略

寄付 横田国臣 川島京子

テレフォンカード・その他商品券

市原かね子 板垣
加藤崇久 奥本民代 西田幸子 今井知子 横田国臣
荒木由美子 草壁まみ 中田栄 早川康夫 あむろの会
水越成子 六角ちい 鈴木伸 大津京子
渡藤暉子 牧篤子 石田栞子

協力会員

奥本民代 横田国臣 藤平洋子 飯川輝子
松本長信 飛田利美子 鈴木伸 鈴木恭子 川島京子
永田由美子 早川康夫・美佐 池田佳子
左藤由身子 木戸毅 西田幸子
橋詰牧子 三村幸子 加藤ヨシ子
末田耕司 平山留利子 原南海子
南馨 辻田平七 小川千代

発行人 神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人 横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 00280-7-73608
名称 横浜市グループホーム連絡会
編集責任者 室津 滋樹
定 価 100円